

第1回経営協議会における意見を踏まえた取組状況

1. 整理、整頓、清潔、清掃の4Sを徹底し、患者の満足度を更に高めるよう努力すること。

院内の整理整頓や清掃、清潔に関しては、患者さんからも多くの意見が出るところであり、特に留意しています。

清掃業者を交えた月1回の打合せにおいて、現場状況を共有し、効果的な方策について話し合っており、患者さんからの苦情も減少傾向にあります。今後も利用者の視点に立って快適な療養環境の提供に努めます。

2. 患者満足度調査には、第三者による外部評価の導入を検討すること。

総合病院では、サービス向上委員会が患者満足度調査を毎年実施しており、その結果についても公表しているところです。

経年変化を見ていることもあり、第三者による評価を取り入れることについては、課題として検討してまいります。

3. 県立病院は三次保健医療圏を対象とした拠点病院として、以下の役割を果たすよう努められたい。

- ① 紹介率・逆紹介率のさらなる向上

県立3病院は、三次保健医療圏を対象とした拠点病院として、高度・専門医療の提供を実践し、他の医療機関との機能分化と連携強化を図ることにより、紹介率・逆紹介率をさらに向上させるよう努めます。

- ② 地域の病院・診療所との医療機器の共同利用の促進

病院見学会をはじめとする、他の医療機関の皆さんにアピールできる場を通じて、院内の高度医療機器を地域の医療機関で活用してもらえよう情報提供を行ってまいります。

- ③ 地域の医療従事者への研修の充実

全県的な視点に立って、県内のどこに住む方にも適切な医療を提供できるよう、各病院の地域の医療従事者に対する研修をより積極的に進めてまいります。

- ④ 医師派遣機能の検討

マザーホスピタル事業などの取組による診療支援・診療連携を進められるよう努めます。

4. 各病院とも救急患者の受け入れ体制の充実に努められたい。

県の施策の動向を踏まえ、健康医療福祉部と協議しながら、必要な対応を検討してまいります。

5. 一般病床の利用率を高め、地域包括ケア病棟に転換した病棟のポストアキュートとしての積極的な活用を推進すること。(総合病院)

一般病床の利用率は徐々に高まっているため、今後、急性期医療機能への一層の重点化を進めたいと考えます。そのため、ポストアキュートについては地域包括ケア病棟を活用し、病院全体で病床機能に応じた効率的な病床運用に取り組んでまいります。

6. 今回の決算は、依然として大きな赤字となっているため、さらなる経営努力により黒字化を目指す必要がある。(総合病院)

総合病院の医療機能をさらに高め、診療報酬制度への対応や県内の病院・診療所との連携を深めることにより、入院患者数の増と単価アップに努めます。

また、材料購入費の適正化や職員の働き方の改善により、費用を抑制し、収支の改善を図ります。

7. 施設見学会を開催するなど、病院や診療所との連携をより深めることが望ましい。

他の病院、診療所の皆さんに当院の施設・機器を見てもらい、つながりを深めることは重要と考えていることから、総合病院では、今年度から定期的に見学会を実施してまいります。

8. B S C 導入後 12 年が経過し、制度疲労が進んでいるように見受けられる部分もあることから、さらに効果を高められるよう、的確な目標設定に努められたい。

B S C の目標については、恣意的な目標値とならないよう一定の基準により見直しをするなど、より効果的な方策を検討します。

9. 学会、研修会への出席や論文発表等は積極的に行われているので、これらの成果を臨床の現場に生かすことにより、高度先進医療を実践されたい。

県立病院に求められる機能を高め、より安全で質の高い医療を提供できるよう、医療従事者の専門スキルを高め、現場での実践に生かしてまいります。

10. 認定・専門看護師、認定看護管理者などの養成を積極的に行うことが望ましい。

認定資格等の取得については、奨励・支援していることから、今後も引き続き奨励していきます。

11. 新専門医制度において、各科が基幹研修施設となることが望ましい。

地域医療を支える専門医を県内で育成するためには、基幹研修施設となることが望ましいものの、すべての科で指導医数や症例数などの基準を満たすことは困難と考えています。ついては、滋賀医科大学等と連携・協力し、本県の専門医育成の体制づくりに取り組んでまいります。